

1 主題名 よく考えて行動する A-③節度・節制

教材名 「いっしょになって、わらっちゃだめだ」出典 新しい道徳 東京書籍

2 主題について

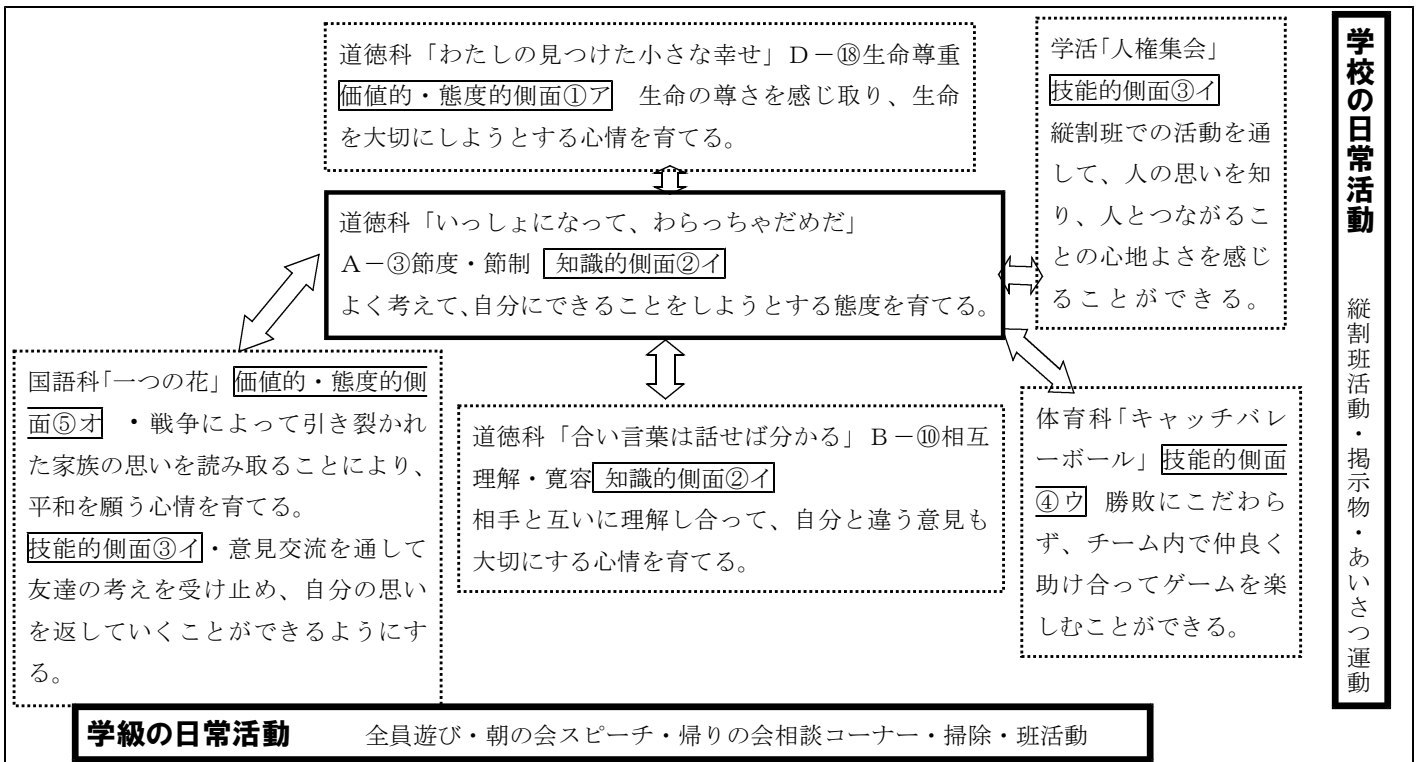
(1) 本主題は、よく考えて、自分にできることをしようとする「節度・節制」である。4 学年は、友達どうしの関わりがいちだんと活発になってくる時期である。その中であって、特に親しい友達を持ちたいという思いから小集団を作り、小集団の中での自分の存在感・リーダーとの関わり・小集団どうしの対立等、友達関係に悩む児童も現れがちである。世の中に出て様々な人間関係の中で生活することを考えると、将来、社会において豊かな人間関係を築く力を身につける上で、重要な時期であるといえる。

「いっしょになってわらう」ということが、いじめに加担することであることを自覚し、「いじめをしない、許さない心」を育てつつ、「自分はどうか行動するか」を問いかけながら、自分の考えをしっかりと持ち、自立して行動する態度、安易に同調しない姿勢の大切さを自覚させたいと考える。人はみんな楽しく過ごしたい、幸せになりたいという思いを持って日々生活しているということを受け止め、自分を律することのできる心を育みたいと考え、本主題を設定した。

本主題の学習において「人権教育を通じて育てたい資質・能力」は、「人権を尊重し合うなかまづくりのために必要な人との関わり方について知る。」(知識的側面②イ)である。この資質・能力を育てることで、人の思いに寄り添い人を大切にするために、自分のすべきことを考えて行動することのできる、主体的な生き方のできる児童に育てたいと考える。

(2) 系統について

他主題・他教科との関連 【人権を尊重し合う仲間づくり】



(3) 児童の実態（本学級 20 名）

児童の実態及び考察については、個人情報にかかわる可能性がありますので、掲載を控えております。

(4) 教材について

本教材は、ゆうじをからかっていることをいじめではないかと指摘された「ぼく」が、自分のいじめに気づき、自分なりの行動に移すという内容である。みのるがゆうじを「モンキー」とよんでいたとき、周りにいた子達が一斉に「ぼく」の方を向いた中、「ぼく」が黙って教室を出て行ったのはどうしてかを話し合い、自分にできることを実践することの大切さを捉えることを通して、ねらいに迫るようにしたい。

(5) 指導にあたっては、次の点に留意する。

- 挿し絵やペープサートを使い、人間関係を短時間で捉えられるように工夫する。
- ワークシートや板書を工夫し、主人公が黙って教室を出て行った心情を深められるようにする。
- 自分の考えを書く（自己内対話）、ペア対話、全体対話を効果的に活用し、揺れる正直な思いを葛藤→思い切り→価値観への高揚と、対話的に深めていくことができるようにする。
- 「自分にできることをしようとする心」という「今日の心」をめあてに持ち**つかむ**、中心発問について対話を通して考え**考える**、自分自身に重ねて振り返り**深める**、今後の人間関係に生かしていこうとする**まとめる**という久木野スタイルに沿った学習過程を通してねらいに迫りたい。
- 人権が尊重される授業づくりの視点

【自己存在感を持たせる支援】

導入ではアンケートの結果を提示し、「人の言動に流される」等について自分はどうかを振り返る事で、自分のこととして学習に参加できるようにする。また、後半には、再び自分のことに立ち返って考えさせ、ハート図等を用いながら、学習を通して考えが深まった自己を自覚させたい。

【共感的人間関係を育成する支援】

発表の仕方・返し方「ことばのキャッチボール」を活用し、友達の考えにしっかりと耳を傾け、自分の考えと比べながら言葉やうなずきで反応を返すことができるような雰囲気作りをする。話し合いの中では、あるべき姿を反映した意見、相反する意見（でも嫌われたくないから…等）両方の考えを大事にし、それぞれの思いを自由に発言させることで、誰しも様々な思いや葛藤があることを共有させたい。

【自己選択・決定の場の設定】

学習の終末には、自分自身について振り返り、今後どのようにしたいかを話したり書いたりすることで、思いを確かなものにさせる。また、友達の思いと交流させる中で、他者に学ぶ姿勢も大切にさせる。

3 研究テーマとの関連

「よりよい関係を創造する生きる力を身に付けた児童の育成」  
～自他の人権を尊重し合う教育活動の積み重ねによる学習主体の育成～

本学習で「人権教育を通じて育てたい資質・能力」は、「人権を尊重し合うなかまづくりのために必要な人との関わり方について知る。(知識的側面②イ)」である。

個人情報にかかわる可能性があります部分がありますので、掲載を控えております。

この学習では、前時の道徳で学んだ「幸福感は誰もが持ちたい思いであり、これは誰からも邪魔されてはいけない人権であること」をまず根底に据える。そして、そのような思いを持った個が、ゆうじのような思いをしたときに、自分だったらどう感じるか、そして、傍観者である「ぼく」が自分だったらどのように行動するかを考えることで、自分の仲間への関わり方を振り返らせ、あるべき姿を思考させたい。「やめろ。」とは言えないまでも、同調しない・その場を去る・表情で伝えるなどの態度で表すことの大切さを知り、「差別を許さない自分」の第一歩として踏み出してほしいと考える。

#### 4 本時の学習

##### (1) ねらい

よく考えて、自分にできることをしようとする態度を育てる。

##### (2) 本時を通じて育てたい人権教育における資質・能力

人権を尊重し合うなかまづくりののために必要な人との関わり方について知る。(知識的側面イ)

##### (3) めざす児童像 (具体的な姿)

生活の中の困ったことについて、解決に向けた方法を理解する。

##### (4) 展開

過程時間	学習活動	教師の発問T 予想される児童の反応C	指導上の留意点及び人権が尊重される授業づくりの視点	備考
つかむ7	1. 周りの考えに流されてしまった経験について考える。	T (アンケートの結果等提示) なぜ流されてしまうのでしょうか。 C さからえない。 C こわい。	○誰にでもあること・クラスの課題でもあることを確認し合う。 <b>自己存在感</b> ○「わたしがみつけた小さな幸せ」を思い起こし、みんなが楽しい学校生活を望んでいることも確認しておく。	アンケート結果 学習のまとめ
考える25	2. めあての確認をする  3. 資料を読んで考える。 ①ゆうじに対して「サル」という声が続いているときのぼくの気持ちを考える。	<b>今日の心 「よく考えて行動する心」について考えよう</b>  T ぼくは、今どんなことを心の中でつぶやいているのでしょうか。 C ゆうじは嫌な思いをしている。 C 助けたい。でも、みんなにどう思われるか心配。  T 自分だったらどうしますか。 C やっぱり言えない。 C 「もうやめようよ。」と言う。	○自分に対する自信度をハート図で表させておく。 ○ CD にて資料を提示し、絵やカードを貼ることで内容を理解させる。 ○①のところで話を切り、ぼくの気持ちを想像させる。 ○揺れる思いを天秤に乗せ、正直に出させていくことで、自分の思いと重ねさせる。 ○相反する意見、両方の考えを大事にする中で、誰しも様々な思いや葛藤があることを共有させる。 <b>共感的人間関係</b>	ハート図 CD
	②「ぼく」が黙って教室を出ていったのは、なぜかを考える。	T ぼくは、どんな思いで黙って	○ CD にて②を聞かせる。 ○ワークシートにぼくの思いを書かせ	天秤 CD ワークシート

ふかめる5 まとめる8	<p>4. 自分のことを振り返る。</p> <p>5. 考えを書き、思いを交流し合う。</p> <p>・ 代表で2～3人発表させる。</p>	<p>教室を出たのでしょう。</p> <p>C ぼくは一緒になってからかうのは嫌だ。</p> <p>C 言うことはできないけれど、おかしいということを態度で表したい。</p> <p>T 自分の天秤はどうですか。友達に流されずに自分で考えて行動するためには、どんなことが大切でしょう。</p> <p>C 何が正しいか、自分で考えること</p> <p>C 友達の思いを知ること</p> <p>T 今日の学習で思ったこと感じたこと、やっていきたいことを書きましょう。</p> <p>T ○さんのように行動しているとする心を一人一人が強く持ちましょう。</p>	<p>ることで、態度で示すという行動を決断した気持ちの強さを感じ取らせる。</p> <p>○題名が「いっしょになって、わらちゃだめだ」であることを確認する。</p> <p>○次々に意見をつなげさせ、互いの考えを交流させる。 <b>共感的人間関係</b></p> <p>○再び「わたしがみつけた小さな幸せ」を思い起こさせる。ひとりひとりが幸せでいたいという思いを邪魔することは、許されないことを確認する。</p> <p>○最初に抱いていた自分に対する自信度がどのように変わったかをハート図で意識させる。 <b>自己存在感</b></p> <p><b>意思の決定</b></p> <p>○思いつかない児童には、「いっしょになって～だめだ」の自分版を考えるよう促す。</p> <p>○発表に対するコメントも返させる。 <b>共感的人間関係</b></p>	<p>ことばのキ ャッチボ ール</p> <p>ハート図</p>

**評価** 友達に同調せず、自分の考えで行動することの大切さに気づいている。(発言・ワークシート) (知識的側面②イ)

5 板書計画

